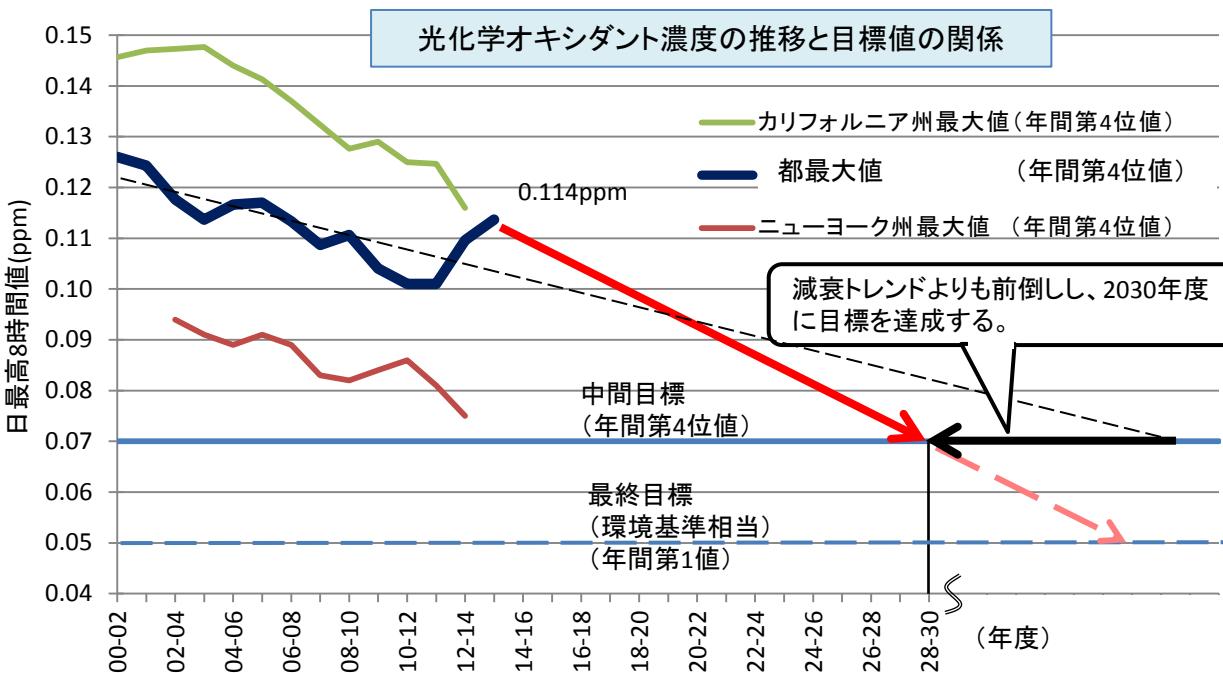


### 1 目標の考え方

- 1973年に環境基準(1時間値0.06ppm以下)設定後40年以上経過するが、都内は全測定局で未達成(2015年4月から12月の1時間値最高値は0.19ppm)
- 最終目標である環境基準達成に向けて、光化学オキシダント濃度の早期低減を図るため、地方自治体として初めて国際的に活用されている8時間値を参考に年次を定めた中間目標を設定する

### 2 目標

全ての測定局で光化学オキシダント濃度の日最高8時間値を0.07ppm以下(2030年度)とする(年間4番目に高い日最高8時間値の3年平均値)



#### (1) 国際機関や他国の主な環境基準等

	値(ppm)	時間値	設定年	備考
日本の環境基準	0.06	1時間値	1973	—
WHOガイドライン値	0.05	8時間値	2005	—
USEPA基準	0.070	8時間値	2015	年間4番目に高い値の3年平均値
EU目標	0.06	8時間値	2002	3年間平均で、1年あたり25日以内

#### (2) 日本の環境基準とWHOガイドライン値の関係

- ・ WHOガイドライン値は、最終目標である日本の環境基準値相当である(図1)

#### (3) 目標をUSEPA基準と同等にした理由

- ・ USEPA基準は、最新の科学的知見に基づき2015年10月に設定
- ・ 目標を達成することで肺機能低下等の健康影響の軽減、入院、救急受診、死亡リスクの減少が期待できる
- ・ USEPA基準は、EU目標より厳しい基準である(図2)

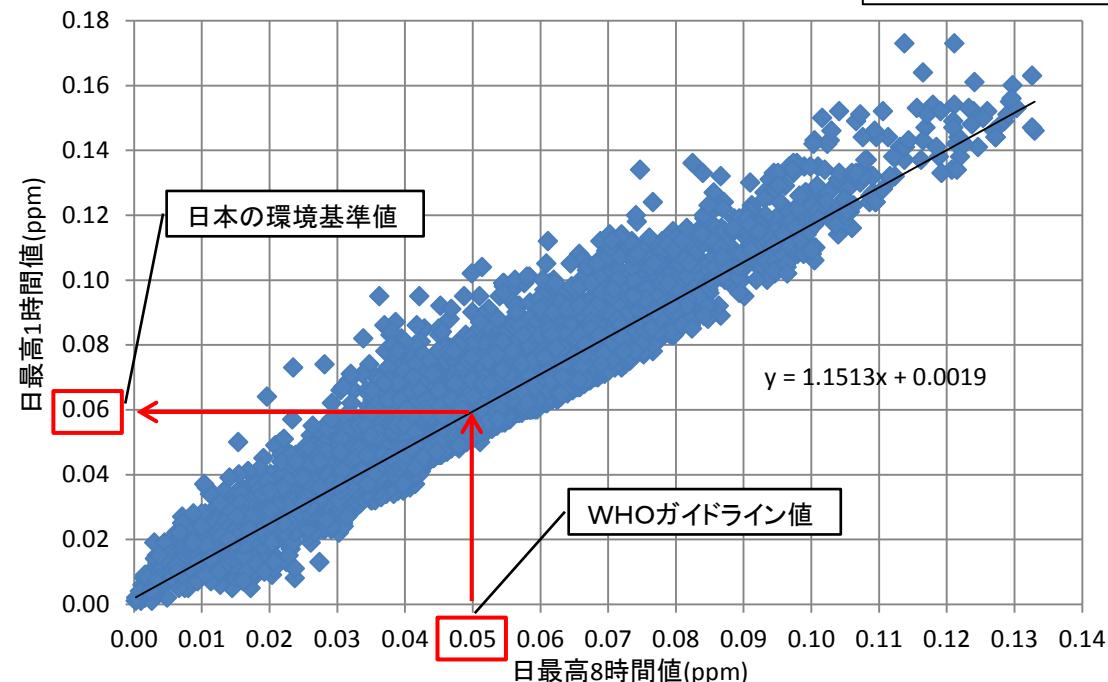


図1 日最高8時間値と日最高1時間値の散布図

- ・ 都内各測定局全日の日最高8時間値と日最高1時間値の関係を示す
- ・ 2014年度の都内測定局41局のデータ(n=14849、欠測116)を用いた

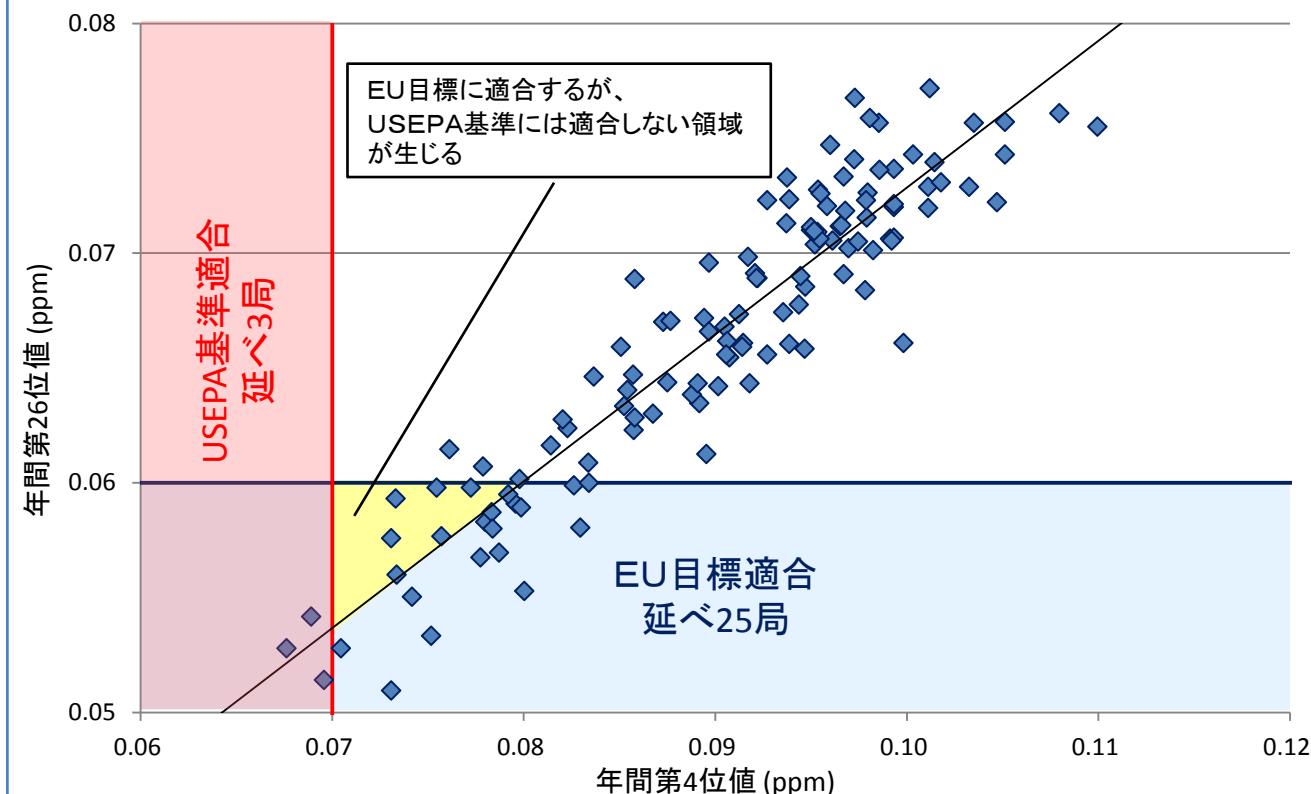


図2 日最高8時間値3年平均の年間第4位値と第26位値の散布図

- ・ 都内測定局ごとの日最高8時間値の年間第4位値3年平均と年間第26位値3年平均の関係を示す
- ・ 2010-2012から2012-2014年度の都内測定局41局のデータ(n=123)を用いた